

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100834		
法人名	社会福祉法人ゆうなの会		
事業所名	グループホームコスモス ユニット1		
所在地	那覇市識名2丁目13番57号		
自己評価作成日	平成27年11月18日	評価結果市町村受理日	平成28年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4770100834-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームコスモスでは、介護理念に『「穏やかで、いっしょに、笑顔溢れる」毎日を過ごして頂く』を掲げています。入居者一人ひとりのペースに合わせて、サービスの提供を行っています。また生け花などサークル活動、アニマルセラピーや菓子製作、演奏会やドライブ等の多くの予定を立てて、生活の中で楽しみや趣味を持って頂けるようにしています。健康面に於いては、毎日のバイタルチェックを行っていくとともに、主治医・訪問看護師と連携し、報告・相談しながら健康の維持が出来るように支援しています。ご家族様には毎月のお便りや電話連絡を行い、入居者の状況や行事等の様子をお伝えしています。面会時には要望などの相談を伺い、ご家族に安心して頂くように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はデイサービスや有料老人ホームの施設を併せ持つ複合施設となっている。近隣には老人福祉センター、児童館、図書館、駐在所等がある。前年度の外部評価の結果を踏まえ、事業所独自の理念を作成し、地域密着型サービスの意義を再確認している。理念は簡潔に「穏やかで」「いっしょに」「笑顔あふれる」を柱に、具体的な介護方針も盛り込んでいる。支援においては、利用者のこれまでの生活や職歴等把握し、利用者の持てる力が発揮できるよう支援している。法人の厨房職員が各フロアに出向き、利用者の目の前で副食を一品(天ぷら、にぎり)調理してもらう昼食の出張サービスを実施している。身体状況によって外出が難しい方や楽しみの一つとして、屋上テラスでのおやつ会が行われ、外気浴や気分転換等も図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成28年1月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員自身が検討を重ね、今年度、新たに施設の理念を作っている。職員全員で理念を理解し、この理念に沿ったサービスの提供を行っている。	理念は、今年度2号館の管理者と職員を中心に話し合い1号館の管理者と職員の意見も取り入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の介護理念と介護方針を作成している。利用者が、「穏やかで」それぞれのペースに合わせた生活を提供できるよう声かけやケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事の情報収集を行っている。予定される行事の内、参加が適当なものには、可能な限り参加し、利用者が地域とのつながりや、楽しみを持っていけるようにしている。	複合施設全体で自治会に加入し、今年度から地域の草刈り作業に職員が参加している。近隣の老人福祉センターのレク体操などに利用者が参加するなど交流している。利用者と散歩中に近所の方と挨拶を交わすようになっている。	地域のボランティアや地域資源の活用、専門性を活かした取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と共に支え合う関係を構築できることを目標にしている。入居者家族からだけでなく、地域の方々からの問い合わせや相談、認知症に関する理解を増やせるよう実習生の受け入れにも対応させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの現状報告を行うだけでなく、現状の課題の検討、家族の要望を伺い、サービスの向上を図るようにしている。	推進会議は、利用者、家族、市職員が参加し定期的に年6回開催している。会議では、利用者の状況、活動内容、介護事故やヒヤリ・ハット、外部評価の報告を行っている。会議の議事録は委員のメンバーには配布し、事業所内に掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に参加し、市の担当者と定期的な情報交換を行っている。研修の情報を得たり、必要に応じて相談が行えるような協力関係を築けている。	市のグループホーム連絡会に2か月に1回定期に参加し、市担当者から制度改正についての説明を受けたり、情報交換を行っている。職員体制などについて、電話や窓口訪問し確認することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を実施して、身体拘束についての理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者虐待や身体拘束について勉強会を実施し、職員はミーティングで対応について検討し確認している。転倒防止のため、低床ベッドにマットを敷き対応しているケースもある。エレベータは長押しで開くよう設定し、非常階段の扉は暗証番号を入力し開けるシステムになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しての研修を実施し、虐待についての理解を深め、自身だけでなく、職員同士が互いの行動に注意が払えるようにしている。		

沖縄県(グループホームコスモス1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての研修を実施し、職員がこれについての理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、重要事項説明も用いて解りやすく内容を説明し、項目毎に気になる事や疑問がないか尋ねながらご理解、納得して頂けるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いや意見は、日頃のケアの中で確認し、家族からは、面会時や運営推進会議で意見や要望を伺うようにしている。入居者や家族からの意見・要望は、申し送りやミーティングで話し合っている。玄関前に意見箱を設置し、家族や外部からの意見を反映できるようにしている。	入居者の意見や要望は日々のケアの中で聞き、家族の対応が必要な時はその旨を家族にも伝えている。家族からは訪問時や行事、運営推進会議等で聞く機会がある。家族には毎月、個別記録を記した事業所便りを発送しており、家族からの要望で毎回の体重を記入している方もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員の気づきや意見、提案を聴くようにし、支援や業務の見直しが必要な時には、その都度話し合っている。また、月1回のミーティングと勉強会、年2回の施設長との面談を通じて、意見や要望を聞く機会を設けている。	管理者は毎月の会議やミーティングで職員の要望や意見を聞きその都度、見直ししている。業務改善で(12時~21時)の勤務体制を作り、サービスの向上に繋げている。年2回の人事考課、資格修得のための勤務調整や参加費の支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課では、職員の目標達成に向け、アドバイスを行い、向上心を持って働けるようにしている。資格取得の情報や取得後は給与に反映している。希望時には有給休暇も取得できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合った、法人内外の研修会へ参加する機会を作り、研修報告書は勉強会等で報告し、全職員が閲覧できるようにしている。新人職員に対しては、1か月間、マンツーマンでの指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修へ参加。施設見学や情報交換を行い、連携を深め、サービス向上に努めている。法人内の職務会は、他事業所との交流や連携が図れるよう、合同で行っている。		

沖縄県(グループホームコスモス1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の状況把握に努め、本人・家族の不安や思い、今後どのような生活を望まれているのか等を傾聴し、そうした不安や要望を伝えやすい関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っている事、不安な事、要望などをゆっくり聞くことが出来るよう家族の都合のよい時間に合わせ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に職員が会いに行ったり、見学を兼ねたホームでの相談の際にも希望などをお聞きし必要に応じて他のサービスの情報なども提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対して、職員は一方的に介助を行うだけではなく、茶話会などを開催し、人生の先輩からの話、貴重な経験を伺う機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、利用者の自宅での生活状況などを伺い、本人にとってよりよい生活を送れるような情報を引き出すとともに、施設行事の参加を促し、利用者と家族の良好な関係の構築を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などの面会があった際には、その方々と一緒に過ごし、会話などを楽しんでいただくように支援している。他にも、一緒にレクリエーションなどの活動に参加して頂くように促している。	行きつけの美容室の利用、毎週、ご家族と教会へ行く方、馴染みの場所への買い物、図書館の利用、生け花を教える利用者、とこれまでの生活や職歴を把握して、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も会話に入り、多くの会話を持つように心がけ、皆様で楽しく過ごせる時間づくりや、利用者同士の関係が良好であるように支援を行っている。		

沖縄県(グループホームコスモス1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	環境が変わっても、これまでの生活を継続的に行えるよう、他の事業所へ、情報提供・支援状況を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が利用者一人ひとりの思いや、希望について関心を持ち、把握するよう努めている。意思疎通が困難な場合は、本人の視点に立ち、話し合いを行っている。	アセスメントやケアチェック表、日頃の関わりの中で言葉や表情等から、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族や友人から情報を得ている。又、家族に写真を提供してもらい、回想しながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、本人の生活歴やライフスタイルを把握するために、本人・家族や友人・知人から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム(食事・睡眠・排泄等)を把握し、本人の体調の変化を確認しながら、レク活動や作品作り、計算ドリルなどを通して、本人の「できる」「わかる」「楽しめる」力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から利用者の生活の様子を家族にお伝えし、職員間で意見の交換や本人の意向・家族の意見を反映する様に介護計画を作成している。	前年度の外部評価を踏まえ介護計画の作成や支援の共有に取り組んでいる。毎月のミーティングでケアカンファレンスが行われ、モニタリングやアセスメントも定期的に、又は随時に行われ、介護計画が作成されている。しかし、利用者の個別の支援内容が介護計画に反映されていない。	現在行われている支援内容や課題など、現状に即した介護計画の見直しと作成が行われるよう取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々のバイタル、食事量、水分量、排泄等、身体的状況や暮らしの様子と本人の言葉、行動を記録し職員の気づきや状況変化は申し送りにチェックし、一覧に共する。勤務開始前に確認する。また介護計画の見直しに活かす。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や要望に応じて通院、外出等必要な支援に対し、個々の満足を高めるよう臨機応変に対応する。		

沖縄県(グループホームコスモス1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館に本を借りに出かけたり、老人センターで行われる体操に参加している。また、観光名所に出掛ける等、日々の暮らしが単調にならず、楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に添えるかかりつけ医を利用し、受診時には日常生活の様子や変化、体調を伝えている。	入居前からかかりつけ医を継続している方は1名で他は全員事業所の協力医に変更している。訪問看護を週1回利用している。誤薬を防ぐため、薬をセットする際のトリプルチェックや投薬時に氏名の確認を行うなど、投薬マニュアルに沿って実施することで改善している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理や状態に応じ、速やかに看護職に報告し、相談・助言・対応を行ってもらい、個別の適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の負担やストレスを軽減するため、本人の支援方法に関する情報を、医療機関に提供している。入院中の状況把握を行い、早期退院が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期支援のあり方について、早期段階で本人・家族と繰り返し話し合っている。ニーズを汲み取りながら、関係者全員の方針の統一を図り、医療機関等と連携を取りながら支援に取り組んでいる。	「重度化した場合における対応」と事業所の指針を明文化している。緊急時医療的処置を要する場合は医療機関へ繋ぐとして入居時に本人・家族の了承を得ている。急変時マニュアルや救急搬送引継ぎ書を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体系やその対応方法についてを書面にまとめ、職員がすぐに目に出るところに掲示している。また、今後は職員全員が参加する応急処置の勉強会を実施していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	より安全に利用者を誘導できるように、消防署の協力を得て、避難経路の確認や避難訓練を定期的に行っている。また、運営推進会議では、地域住民の協力を呼び掛けている。	複合施設全体で総合避難訓練を昼夜想定で年2回実施している。緊急時のマニュアルも整備され福祉避難所として指定されている。備蓄は法人の母体で準備している。地域に防災協力員3名が登録されている。複合施設全体の通報設備は2階に設置しているが、操作方法など職員に周知不足である。	職員が最新の通報設備の操作方法を身に付けられるよう、災害シュミレーションなどの取り組みに期待したい。

沖縄県(グループホームコスモス1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な際も、まずは利用者の気持ち・意見を尊重し、一人ひとりに合ったケアが出来るように努めている。職員間での情報交換の際には、居室番号を使用して、プライバシーの確保を徹底している。	職員は接遇マナー講習を受け日頃の支援のなかで、利用者子ども扱いしない言葉掛けに注意している。本が好きな利用者は、職員と一緒に図書館へ出掛け、借りた本を利用者が交代で読み聞かせを行うなどが発揮できるよう支援している。排泄支援の時もタオル等をかけてプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々に合わせた声掛けを常日頃から行い、意思表示に困っている方には、複数の選択肢を提示したり、本人が答え易く、選び易いような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調を配慮しながら、その時々本人の気持ちを尊重するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は基本的に本人の意向で決めて頂き、職員はアドバイスや見守り等、必要な時に手伝うようにしている。行事や外出等、化粧やおしゃれを楽しんで頂けるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳を入居者と共に行い、職員と同じテーブルで会話を楽しみながら、食事を召し上がって頂くようにしている。	施設合同の厨房から配食された副食を、利用者と一緒に皿に盛り付けている。食器洗いや片付けを行う利用者もいる。職員は利用者とテーブルを囲み同じ食事を摂っている。利用者に食事を楽しんでもらえるよう、2、3か月に1回、厨房職員が利用者の目の前で調理する出張サービスを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食が細い方には、本人の嗜好を伺いながら、必要に応じて提供する食事を変更したり、楽しく召し上がって頂ける環境作りを配慮している。その上で、摂取量が少ない時には、提供時間の変更や補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所へ声かけし、誘導しています。一人でできる方は見守りを行い、一部介助・全介助など歯磨きが不十分な方は、個々の状態に合わせて口腔ケアの手伝いを行います。		

沖縄県(グループホームコスモス1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。排泄チェック表を用いて、声掛けやトイレ誘導を行い、失禁などの失敗を減らし、トイレでの排泄が行えるように支援している。	日中は全員トイレで排泄できるよう取り組んでいる。夜間は利用者の状況に応じて支援し、転倒回避の為ポータブル使用や睡眠を摂ってもらいたいとの家族の希望でオムツの方もいる。パット交換時は洗浄して清潔にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の飲み物の摂取量を把握し、便秘の方への水分補給や、ラジオ体操への参加誘導を行い運動の機会をもうけ、便秘対策に取り組んでいる。必要に応じては、医師と相談し、下剤の処方を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりが安心・安全に楽しめるよう、時間帯などの希望を取り入れ、気持ち良く入浴ができ、安眠できるよう支援している。	毎日脱衣場に、全員の着替えと入浴セットを個別の籠に準備して、希望した時に入浴できるようにしている。入浴は週3回で入浴日以外は足浴をしている。好みの石鹸やシャンプーで、入浴後は居室で整容する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スムーズに就寝できるよう、日中の活動に配慮している。寝付けない時には飲み物等を提供しながら話し相手になり、安心感を持っていただき、入眠を促している。生活のペースに合わせて、午睡も勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルは個別に作成されており、処方薬の副作用なども確認できるようになっている。服薬時はフルネームで名前を読み上げ、日にちの確認も行っている。処方の変更があった時には、申し送りや個別に薬ケースにメモを書くなどして周知させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事メニューの記入、盛り付け、洗濯物たため、作品作りなど、利用者一人ひとりに合わせた作業を提供し、楽しみや能力を発揮する場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に合わせた外出支援に努めている。施設職員が付き添って、定期的に図書館や買い物、地域行事への参加を実施するとともに、家族にも協力を求め、外出の機会を設けて頂くように促している。	日常的に事業所周辺の散歩や買い物、ドライブ、ベランダや屋上で外気浴、日光浴している。定期的に老人センターや生け花サークル等に出かけ交流している。地域や季節の行事(浜下りには全員で)に出かけたり、家族の協力で外食に出かけている。	

沖縄県(グループホームコスモス1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設生活において、金銭の使用頻度は少ないが、全く金銭を持っていない事で、不安を感じる方もいる。本人の安心・満足の為に、必要に応じては少額の金銭を持って頂くように、家族とも相談し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人希望に沿って、家族への電話対応を行っている。家族に対して、月毎に写真と手紙を送り日々の生活状況をお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	団らん室には季節に合った作品や歌の歌詞を掲示している。作品と一緒に作ったり、歌の練習をする等して現在の季節を感じつつ生活を楽しめるように配慮している。	リビングには季節のクリスマスツリーが飾られ、利用者はリビングで歌のDVDを見て過ごす方や、利用者同士の会話が聞かれた。弱酸性次亜鉛素酸精製水で事業所内を消毒し感染予防に繋げている。廊下やエレベーター前にもソファを設置し、一人になれる場所作りをしている。また職員とゆっくり会話をする場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	団らん室では、普段食事をするテーブル以外にも団らん室、廊下に2か所づつソファを設置しており、利用者の居場所を限定的にしないようにしている。一方で会話の機会を持てるように職員が声掛けし促すようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家で使用していた馴染みの物(寝具、飾り物)等を使用していただいたり、壁には家族写真や本人が作った作品等を飾るなどして、安心・居心地良く過ごせるようにしている。	アルバムや本、テレビ、三線等が持ち込まれ、洗面台、トイレ、クローゼット、ベッドは備え付けている。カウンターテーブルには利用者が見えやすい大きな文字の時計や作品、小物が飾ってある。居室入口ドアに車いすをぶつけやすい利用者には、入口を段ボールで囲うなど安全面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の不安・混乱材料がないか、本人と一緒に話し合い、物の配置や部屋の入口、フロアから本人の部屋までの廊下にテープを貼り、本人がわかりやすいように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100834		
法人名	社会福祉法人ゆうなの会		
事業所名	グループホームコスモス ユニット2		
所在地	那覇市識名2丁目13番57号		
自己評価作成日	平成27年11月18日	評価結果市町村受理日	平成28年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4770100834-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームコスモスでは、介護理念に『「穏やかで、いっしょに、笑顔溢れる」毎日を過ごして頂く』を掲げています。入居者一人ひとりのペースに合わせて、サービスの提供を行っています。また生け花などサークル活動、アニマルセラピーや菓子製作、演奏会やドライブ等の多くの予定を立てて、生活の中で楽しみや趣味を持って頂けるようにしています。健康面に於いては、毎日のバイタルチェックを行っていくとともに、主治医・訪問看護師と連携し、報告・相談しながら健康の維持が出来るように支援しています。ご家族様には毎月のお便りや電話連絡を行い、入居者の状況や行事等の様子をお伝えしています。面会時には要望などの相談を伺い、ご家族に安心して頂くように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員自身が検討を重ね、今年度、新たに施設の理念を作っている。職員全員で理念を理解し、この理念に沿ったサービスの提供を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の情報収集を行っている。予定される行事の内、参加が適当なものには、可能な限り参加し、利用者が地域とのつながりや、楽しみを持っていけるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と共に支え合う関係を構築できることを目標にしている。入居者家族からだけでなく、地域の方々からの問い合わせや相談、認知症に関する理解を増やせるよう実習生の受け入れにも対応させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの現状報告を行うだけでなく、現状の課題の検討、家族の要望を伺い、サービスの向上を図るようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム連絡会に参加し、市の担当者と定期的な情報交換を行っている。研修の情報を得たり、必要に応じて相談が行えるような協力関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を実施して、身体拘束についての理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しての研修を実施し、虐待についての理解を深め、自身だけでなく、職員同士が互いの行動に注意が払えるようにしている。		

沖縄県(コスモス ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての研修を実施し、職員がこれについての理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、重要事項説明も用いて解りやすく内容を説明し、項目毎に気になる事や疑問がないか尋ねながらご理解、納得して頂けるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いや意見は、日頃のケアの中で確認し、家族からは、面会時や運営推進会議で意見や要望を伺うようにしている。入居者や家族からの意見・要望は、申し送りやミーティングで話し合っている。玄関前に意見箱を設置し、家族や外部からの意見を反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員の気づきや意見、提案を聴くようにし、支援や業務の見直しが必要な時には、その都度話し合っている。また、月1回のミーティングと勉強会、年2回の施設長との面談を通じて、意見や要望を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課では、職員の目標達成に向け、アドバイスを行い、向上心を持って働けるようにしている。資格取得の情報や取得後は給与に反映している。希望時には有給休暇も取得できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに合った、法人内外の研修会へ参加する機会を作り、研修報告書は勉強会等で報告し、全職員が閲覧できるようにしている。新人職員に対しては、1か月間、マンツーマンでの指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修へ参加。施設見学や情報交換を行い、連携を深め、サービス向上に努めている。法人内の職務会は、他事業所との交流や連携が図れるよう、合同で行っている。		

沖縄県(コスモス ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の状況把握に努め、本人・家族の不安や思い、今後どのような生活を望まれているのか等を傾聴し、そうした不安や要望を伝えやすい関係づくりに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っている事、不安な事、要望などをゆっくり聞くことが出来るよう家族の都合のよい時間に合わせ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に職員が会いに行ったり、見学を兼ねたホームでの相談の際にも希望などをお聞きし必要に応じて他のサービスの情報なども提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対して、職員は一方的に介助を行うだけでなく、茶話会などを開催し、人生の先輩からの話、貴重な経験を伺う機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、利用者の自宅での生活状況などを伺い、本人にとってよりよい生活を送れるような情報を引き出すとともに、施設行事の参加を促し、利用者や家族の良好な関係の構築を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などの面会があった際には、その方々と一緒に過ごし、会話などを楽しんでいただくように支援している。他にも、一緒にレクリエーションなどの活動に参加して頂くように促している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も会話に入り、多くの会話を持つように心がけ、皆様に楽しく過ごせる時間づくりや、利用者同士の関係が良好であるように支援を行っている。		

沖縄県(コスモス ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	環境が変わっても、これまでの生活を継続的に 行えるよう、他の事業所へ、情報提供・支援状況 を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	職員全員が利用者一人ひとりの思いや、希望に ついて関心を持ち、把握するよう努めている。意 思疎通が困難な場合は、本人の視点に立ち、話 し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	プライバシーに配慮しつつ、本人の生活歴やライ フスタイルを把握するために、本人・家族や友 人・知人から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム(食事・睡眠・排 泄等)を把握し、本人の体調の変化を確認しなが ら、レク活動や作品作り、計算ドリルなどを通し て、本人の「できる」「わかる」「楽しめる」力の発 見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	日頃から利用者の生活の様子を家族にお伝え し、職員間で意見の交換や本人の意向・家族の 意見を反映する様に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々のバイタル、食事量、水分量、排泄 等、身体的状況や暮らしの様子と本人の言葉、 行動を記録し職員の気づきや状況変化は申し送 りにチェックし、一覧に共する。勤務開始前に確 認する。また介護計画の見直しに活かす。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況や要望に応じて通院、外出等 必要な支援に対し、個々の満足度を高めるよう臨 機応変に対応する。		

沖縄県(コスモス ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館に本を借りに出かけたり、老人センターで行われる体操に参加している。また、観光名所に出掛ける等、日々の暮らしが単調にならず、楽しんで頂けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に添えるかかりつけ医を利用し、受診時には日常生活の様子や変化、体調を伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の健康管理や状態に応じ、速やかに看護職に報告し、相談・助言・対応を行ってもらい、個別の適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の負担やストレスを軽減するため、本人の支援方法に関する情報を、医療機関に提供している。入院中の状況把握を行い、早期退院が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期支援のあり方について、早期段階で本人・家族と繰り返し話し合っている。ニーズを汲み取りながら、関係者全員の方針の統一を図り、医療機関等と連携を取りながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体系やその対応方法についてを書面にまとめ、職員がすぐに目に来るところに掲示している。また、今後は職員全員が参加する応急処置の勉強会を実施していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	より安全に利用者を誘導できるように、消防署の協力を得て、避難経路の確認や避難訓練を定期的に行っている。また、運営推進会議では、地域住民の協力を呼び掛けている。		

沖縄県(コスモス ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な際も、まずは利用者の気持ち・意見を尊重し、一人ひとりに合ったケアが出来るように努めている。職員間での情報交換の際には、居室番号を使用して、プライバシーの確保を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々に合わせた声掛けを常日頃から行い、意思表示に困っている方には、複数の選択肢を提示したり、本人が答え易く、選び易いような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調を配慮しながら、その時々本人の気持ちを尊重するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は基本的に本人の意向で決めて頂き、職員はアドバイスや見守り等、必要な時に手伝うようにしている。行事や外出等、化粧やおしゃれを楽しんで頂けるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳を入居者と共に行い、職員と同じテーブルで会話を楽しみながら、食事を召し上がって頂くようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食が細い方には、本人の嗜好を伺いながら、必要に応じて提供する食事を変更したり、楽しく召し上がって頂ける環境作りを配慮している。その上で、摂取量が少ない時には、提供時間の変更や補助食品を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所へ声かけし、誘導しています。一人でできる方は見守りを行い、一部介助・全介助など歯磨きが不十分な方は、個々の状態に合わせて口腔ケアの手伝いを行います。		

沖縄県(コスモス ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。排泄チェック表を用いて、声掛けやトイレ誘導を行い、失禁などの失敗を減らし、トイレでの排泄が行えるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の飲み物の摂取量を把握し、便秘の方への水分補給や、ラジオ体操への参加誘導を行い運動の機会をもうけ、便秘対策に取り組んでいる。必要に応じては、医師と相談し、下剤の処方を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりが安心・安全に楽しめるよう、時間帯などの希望を取り入れ、気持ち良く入浴ができ、安眠できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スムーズに就寝できるよう、日中の活動に配慮している。寝付けない時には飲み物等を提供しながら話し相手になり、安心感を持っていただき、入眠を促している。生活のペースに合わせて、午睡も勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイルは個別に作成されており、処方薬の副作用なども確認できるようになっている。服薬時はフルネームで名前を読み上げ、日にちの確認も行っている。処方の変更があった時には、申し送りや個別に薬ケースにメモを書くなどして周知させている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事メニューの記入、盛り付け、洗濯物たたみ、作品作りなど、利用者一人ひとりに合わせた作業を提供し、楽しみや能力を発揮する場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に合わせた外出支援に努めている。施設職員が付き添って、定期的に図書館や買い物、地域行事への参加を実施するとともに、家族にも協力を求め、外出の機会を設けて頂くように促している。		

沖縄県(コスモス ユニット2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設生活において、金銭の使用頻度は少ないが、全く金銭を持っていない事で、不安を感じる方もいる。本人の安心・満足の為に、必要に応じては少額の金銭を持って頂くように、家族とも相談し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望に沿って、家族への電話対応を行っている。家族に対して、月毎に写真と手紙を送り日々の生活状況をお知らせしている。		
no	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	団らん室には季節に合った作品や歌の歌詞を掲示している。作品と一緒に作ったり、歌の練習をする等して現在の季節を感じつつ生活を楽しめるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	団らん室では、普段食事をするテーブル以外にも団らん室、廊下に2か所ずつソファを設置しており、利用者の居場所を限定的にしないようにしている。一方で会話の機会を持てるように職員が声掛けし促すようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家で使用していた馴染みの物(寝具、飾り物)等を使用していただいたり、壁には家族写真や本人が作った作品等を飾るなどして、安心・居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の不安・混乱材料がないか、本人と一緒に話し合い、物の配置や部屋の入口、フロアから本人の部屋までの廊下にテープを貼り、本人がわかりやすいように配慮している。		